

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!

西部の英語科の未来へバトンをつなぐ



令和元年12月発行
西部教育事務所

限られた時間の中で教材研究の難しさを感じている先生方も多いと思います。講師、中妻准教授の具体的で大変分かりやすいご助言により、今回も学びの多い講座になりました。



西部管内の
講座関係のHP

【提案内容】小学校6年「新しく来たALTの先生に四万十市を紹介しよう!」(We Can!2 Unit4 I like my town.)

【授業者】乾 城次 教諭(HRT)、池田 真代 教諭(JTE)、マデリン・アームストロング(ALT) [四万十市立東山小学校]

提案授業について

新学習指導要領 領域別目標 (4)話すこと [発表] ウ

身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

We have ~. We don't have ~.

本時(7/8時間目)の目標

◆相手に配慮しながら、自分たちが住む地域について、自分の考えを話すことができる。

教材研究会で
明らかとなった
課題

中間評価において言語活動の何を向上させればよいか?

✳️高学年の学習では、内容の向上に向けた中間評価が大切です。1時間の授業の中で、最初よりも内容が良くなったことを実感させてあげることが重要です。

「何ができるようになったか」を自覚できる授業とは?

✳️今日できるようになったことを実感させるためには、授業の終わりに学びを振り返る必要があります。また、振り返りを全体共有することで、学びを広げることが重要です。

授業の実際 (教材研究会を受けての改善策・工夫点)

明確な相手意識・目的意識

四万十市に新しく来たALTの先生から、自己紹介のビデオレターが送られてきて、好きなもの・興味があるものを知った。

四万十市を知ってもらい、楽しく生活してもらいたいから、自分たちで四万十市を紹介しよう。

本時のめあて: よりよい四万十市の紹介にしよう

楽しい発表

簡単で分かりやすい内容

相手が行きたいなと思う工夫

ALTのニーズに合わせた内容

既知の見方・考え方で
焦点化

中間評価による言語活動の内容の向上【明確なHRT/ALT/JTEの役割】

あるグループの発表

Hello. This is the Shimanto City.
We like the Shimanto City.
We have Shimanto pork, ayu and eels.
They are good.
We have Shimanto River and nature.
It's beautiful.
We don't have aquariums and theaters.
We want an aquarium and a theater.
Shimanto City is nice.
I enjoy Shimanto City.
Thank you for listening.

子供同士のアドバイス

ジェスチャーがあって良い
ゆっくり大きな声で言うが良い
一人ひとりの自己紹介があった。
スラスラ言えている
「来てください」と誘っていた
伝え方に加え、内容にも気付きがある

HRTの中間評価

児童の気付き: 「自己紹介」
他グループの表現: "Please enjoy Shimanto city."
を取り上げ、「楽しんでもらいたい」という気持ちを伝えることや要件でなくつながりを大切にすることも加えると良いことに気付かせた。

ALTの中間評価

スピーチの短さを指摘し、
"Do you like Swimming?"
"Do you like fish?"
などの相手に質問をしながら、四万十市にあるものの良さを伝えると良いことに気付かせた。

JTEの中間評価

ALTのコメントを取り上げ、
"We have ~."
"It's ~."
だけではなく
"You can ~." など、
できることを伝えると相手は「行ってみようかな?」と
思えることに気付かせた。

児童の気付き
や発表例から
更に内容に
着目させる

再構築

C1: 映画が見たいとか、魚が見たいを言ってみるのはどう?
C2: 見るは Watch? 見たいだから...
I want to watch movies.
C3: いいと思う!
C1: 四万十川のところは、Do you know Shimanto River?で先に聞く?
ALT: Shimanto River has beautiful nature.
C2: そういふことか!
Do you know Shimanto River?
Shimanto River has beautiful nature.

学習指導要領解説をもとに

中妻先生によるご指導・ご助言

～中間評価の在り方、人・もの・ことの効果的な活用～

外国語科で重要なこと①

コミュニケーションを行う際、**英語で伝え合うだけでなく、自分の考えと、コミュニケーションする相手の考えを比較したり、新たな考えを知識として取り入れたりしながら、自分の考えを再構築することである。**

小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 P99

外国語科重要なこと②

こうした言語活動の質の高まりによる自分の考えの変容について、**自ら学習のまとめを行ったり、振り返りを行ったりすることで、「思考力・判断力・表現力等」を高める必要がある。**

小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 P99

理論と授業実践をつなぐ

高学年は、言語活動の質(内容)を高めることが必要。

どう言ったら良いかわからないことについて、既習事項を想起し、みんなで考える。

みんなで考えた表現を使える場を設定し、内容の高まりを自覚させる。

良い聞き手が良い話し手を育てる

まずは教師が良い聞き手になり、聞き返したり質問したりする。

または、教師は子供の活動に入り込み、話し手として、1番の良いモデルとなる。

子供は、教師の言った内容から必要な表現に気付く。繰り返すことで、子供同士でできるようにする。

指導者の役割①

学級担任は、子供の気付きを問い返して引き出す。

C: 書いてあること以外も言っていたよ。
T: どんなことを言っていたの?

C: 突然質問されたことにも答えていたよ。
T: すごいね! 答えられなかったことなかった?

振り返りが大切

思考力・判断力・表現力を高めるための振り返りの場の設定が必要。

できるようになったことを実感することで初めて自信や楽しさを感じられる。

「どこが変わったのか」個人の変容や気付きをみんなで共有し、学び合う仲間にした。

指導者の役割②

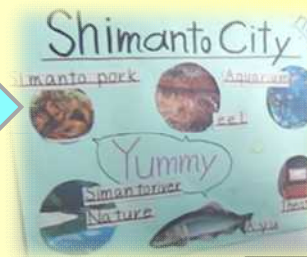
思考力・判断力・表現力の育成は外国語科だけでは行うものではない。

温かな学級づくりを大切にし、やり取りする授業をどの教科でも実践する。

各教科の特質に応じた思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。



小学校 英語科
授業づくり講座
講師: 鳴門教育大学
中妻 佳代 准教授



授業について

- 中間評価の後、子供たちが再構築し、必要な内容を取り入れて発表ができた時にとてもうれしそうな笑顔だったことが良かった。
- 授業後にHRTから、「教師による中間評価の後に、子供達の発表内容が良くなったことを実感した。次は子供たち同士でできるようにしたい。」という言葉が聞けたことがとても良かった。

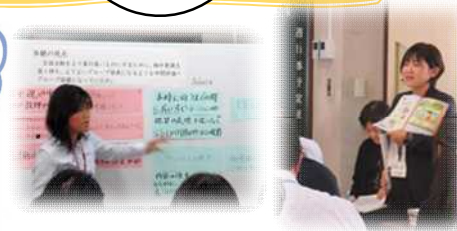
参加者の声

☆単元ゴール活動で、子供にどのような視点でお互いにアドバイスし合うようにするかは、それまでの授業の中で指導していけるのではないかと思います。実践してみたいと思いました。

☆最後は「子供自身が楽しみながら学ぶ！」ことが子供の自信につながるということ。「学んだこと」をどう「活用する」のかということ。たくさん学ぶことができうれしかったです。この「学んだこと」をぜひ「活用」していきたいです。

☆「子供は気付きかけている」という言葉は、まさにその通りだと感じました。それを引き出し、学びにつなげられるようにどうすれば良いかを校内で考えていきたいと思いました。

☆質の高いコミュニケーションをするためには、温かな学級づくりがベースになること、やり取りをする授業形態をどの教科でも実践すること、「いい聞き手がいい話し手を育てる」ということを意識して日々の授業を作っていきたいと思いました。



今年度の計4回の授業づくり講座が終わりました。
東山小学校の先生方には様々なご提案を頂きました。本当にありがとうございました。